

八ヶ岳 赤岳主稜

記 柴田



期 間：2023年 2月 18日（土）

参加者：河本さん、柴田

コースタイム：

2月18日（土）3:00 横須賀→6:45 赤岳山荘→9:00 行者小屋→10:30 主稜取付
→14:00 赤岳山頂→15:15 行者小屋→16:45 赤岳山荘

記録

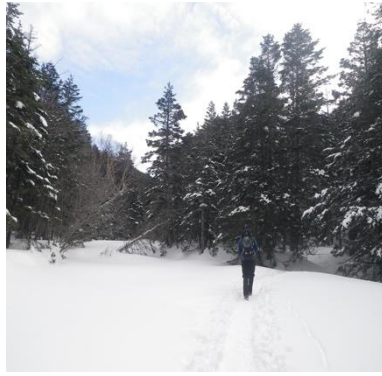
2/18～19に赤岳主稜、中山尾根を登攀予定だったが、荒天の為2/18に赤岳主稜のみ登攀した。

以下、詳細

2月18日（土）曇り

3:00に横須賀を出発し、6時過ぎ赤岳山荘に到着した。美濃戸口から赤岳山荘までは雪が付いていない箇所もあり、この時期の八ヶ岳にしては珍しい感じだった。（山頂付近も雪が少なかった。帰り道は気温が高かった為道の半分くらい雪が溶けていた）

山荘到着後荷物を準備し、早々に出発、南沢ルートで行者小屋へ向かった。南沢は基本雪道だが、一部右側が崖でなおかつ道が凍結している箇所があるのでアイゼンを付けてない場合は注意が必要だった。

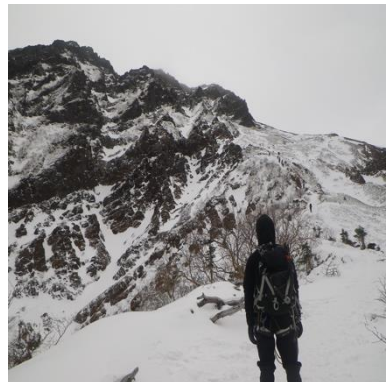


南沢

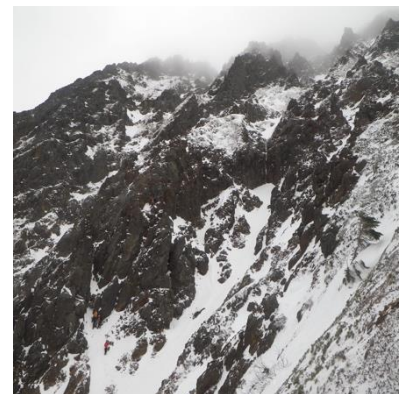
行者小屋で小休憩を取って、アイゼン・登攀装備を装着した。行者小屋右手の文三郎尾根を登り、そこそこの急登を 45 分程で樹林帯を抜ける。それまでは無風だったが、ここからは時折山側から強風が吹き付けるようになって来た。上を見上げると赤岳が真上に見えて、主稜も正面に捉えられる。文三郎尾根上も多くの人の列が出来ていたが、赤岳主稜にも各ピッチにパーティが取り付いているのがよく見えた。樹林帯を抜けてから 15 分ほどで主稜との分岐に到着し、急傾斜のルンゼと尾根筋を左へトラバースする。ノーザイルで進んだが、所々雪が薄く岩が剥き出しとなっているのが嫌な感じだった。50m 程で 1 ピッチ目 CS の真下に辿り着き、先行の 3 人パーティとソロの登山者を待っての登攀開始となった。



樹林帯を抜ける



赤岳方面



分岐から赤岳主稜

下部岩壁 1 ピッチ目 河本さんリード

CS の登りからスタートする。左右に足を乗せて突っ張り、左右にガバがあるので丁寧に探しながら登った。CS 自体もアンダーホールドになっていて使える。八ヶ岳の岩質なのかアイゼンを岩の上に置いても滑らず乗れるので安心して足を使えた。CS の上には雪が溜まっていてホールドがない。雪面にバイルを突き刺して勢いよく乗越した。乗越した先は緩いルンゼで数メートル歩いた後、ホールドが豊富で楽なリッジを右上する。10~15m 程で 1 ピッチ目終了点のテラスに到着した。



トラバース



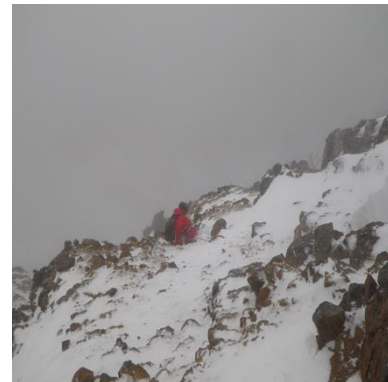
1 ピッチ目 CS

下部岩壁 2 ピッチ目 柴田リード

支点の左の岩壁を登る。一度正面を登りバンドに沿って左側に出てから登ると楽そうだった。序盤数メートルを登ると後は傾斜の緩い楽な岩場と草付きで、30mほど登って先行者が終了点を使っていたので、手前のピナクルでピッチを切った。

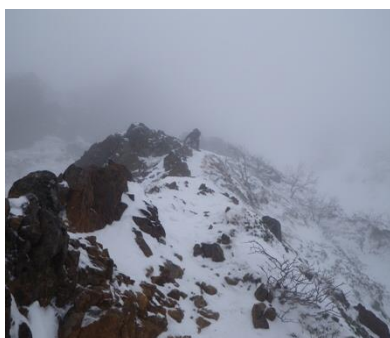


2 ピッチ目出だし



2 ピッチ目終了点から下

ザイルを畳んで、ノーザイルで中間雪稜は登る事とした。2 ピッチ目の終了点から 2.30m 程雪稜を登ると中間岩壁に到着する。先行はスタカットで登るようだったので、ここで抜かせて頂いた。左側の階段状の箇所を登り、ルンゼを跨いで右の稜に乗り換えした。II 級程度の登りだったと思う。ここから少し岩場を歩くと、左側にルンゼが見えてくる。ルンゼとリッジが合流する辺りからフィックスロープも張ってあった。ルンゼを詰めて右側の窪んだ箇所に入り込むと左側に上部岸壁の支点がある。



2 ピッチ目終了点から上



中間の岩壁



上部岩壁手前



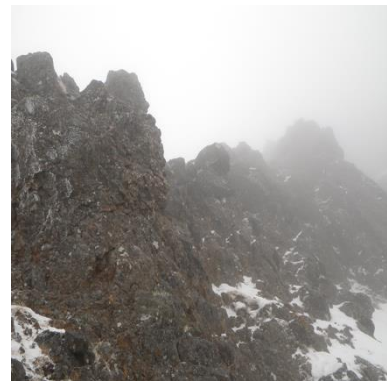
フィックスも張ってある

上部岩壁 1ピッチ目 柴田リード

出だし数メートルは少し立った岩場を登るが、手で持てるホールドも豊富で、下もテラスなので恐怖感はなかった。登った先はまた傾斜の寝たリッジが続いていて、20mほどで顕著なチムニーが現れる。ここが中々狭くて足の動きが制限されいやらしい感じだったが、チムニーの中にペツルも打たれていて、手で掴めるホールドもあったので勢いよく行けた。チムニーを抜けて右側に数メートルでペツルが2つ打たれた終了点に到着した。



上部1ピッチ目



リッジの右側を登る

上部岩壁 2ピッチ目 河本さんリード

終了点のあるリッジ若しくは、左側のルンゼを詰めていくと50m程で左側に残置ロープのある終了点が見えてきて、最終ピッチの岩場手前でピッチを切った。ここも傾斜が寝ていて特に難しい箇所は無かった。

上部岩壁 3ピッチ目 柴田リード

階段状の岩場を数メートル登ると、登山道の様なしっかりとした道となり、間もなく現れる大きなピナクルを右に巻いて、雪稜を詰めると正面に登山道のロープと標識が見えてくる。上まで登り切ってしまうと落石を起こしそうだったので、手前の大きめなピナクルを終了点とした。

ここから2.30mほど石でガレガレのリッジを慎重に詰めて、ロープを潜ると登山道に到着した。右へ数分歩いて頂上山荘に到着し、小休憩のあとまた数分で赤岳頂上に到達した。頂上に着く頃には周りはガスだらけで眺望は一切なく風も強くなってきた。そのまま頂上を直進し、文三郎尾根の分岐を目指す。ここ

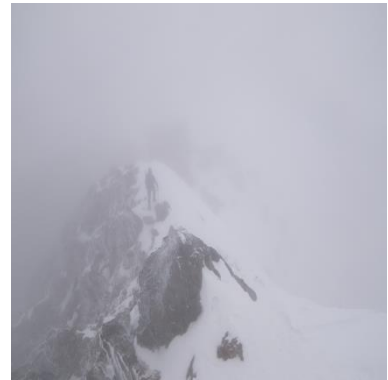
からは特に危険箇所もなく 1 時間と少しで行者小屋へ降りてくることができた。この時間でも登ってくる登山者と沢山すれ違い、赤岳の人気さに驚いた。行者小屋から南沢を駆け降りて、17 時前には赤岳山荘に到着、翌日荒天予報のためそのまま帰路に着いた。



頂上山荘



赤岳頂上



頂上から小屋方面

感想

今回は八ヶ岳の入門ルートとして人気のある赤岳主稜の登攀でした。前日の予報では 20m の強風と曇りのち風雪で状態は良くないだろうと予想しており、そこまでの風ではなかったものの予報通りの状態でした。ですが気温が高かった為、強風が吹き付けて日が出ていなくても、そこまで寒さを感じず、危険を感じずに登る事が出来ました。

また文三郎尾根から樹林帯を抜けて赤岳主稜を見ると、好天の予報ではないにも関わらず多くのパーティが各ピッチに取り付いていて、主稜の人気さを改めて実感しました。実際に登ってみると各所に立派なアンカーやフィックス、残置ロープもあり、短めなルート(難しいピッチも少ない)為、色々なパーティが取り付くのも納得できました。出だしこそ順番待ちとなりましたが、その後は自分達のペースで登る事も出来てとても快適でした。

最後に、改めて素敵な山行を共にしていただいた河本リーダーに感謝申し上げます。(3 度目の主稜に付き合ってもらってありがとうございます、今回は中山尾根出来ませんでした、また来年必ず登りに行きましょう！)

・・・今回下山後は、小淵沢 IC 近くのやまよしさんで夕食を頂きました。赤將軍という辛いラーメンは大盛りでしっかり量もあってウマモツ丼もとても美味しかったです。

